

肥後医育振興会に期待する

熊本大学医学部医学科後援会会長
独立行政法人国立病院機構熊本再春医療センター院長

上山 秀嗣



平成三十一年四月より独立行政法人国立病院機構熊本再春医療センターの院長を務めております上山秀嗣と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は熊本県の出身で、昭和五十九年に熊本大学医学部を卒業後旧第一内科に入局し、脳神経内科医として臨床と研究を行って参りました。熊本大学に九年間、大分大学に十一年間と大半を大学病院で勤務し、平成十八年に大分大学から現在の職場に異動し現在に至っています。

私が勤務しています熊本再春医療センターは、熊本県北部の合志市に位置

する病床数四百二十床の国立病院機構の病院です。神経筋難病や重症心身障害児(者)患者が長期入院する療養介護病棟を百六十床有し、政策医療と地域急性期医療の二本立ての医療を展開しています。

私は平成二十九年に次男が熊本大学医学部へ入学したことを契機に熊本大学医学部医学科後援会の理事に任命され、令和四年度からは会長を拝命するとともに肥後医育振興会の評議員に任命されました。

私が肥後医育振興会に期待することは、熊本大学出身の医師が地元で活躍できるように最大限の援助をお願いしたいということです。その理由は、病院長を拝命して三年が経ちますが、私が最も頭を悩ませている問題が医師の確保だからです。

熊本県の人口当たり医師数は全国平均を上回る一方で、その約六割が熊本

市に集中しており「地域偏在」が顕著

です。特に、熊本市外の公的病院の勤務医不足は深刻で、診療科によっては休業を余儀なくされる状況に迫り込まれています。このため、県は熊本大学と協力して「熊本県地域医療支援機構」を設立し市外の公的病院に医師を派遣していますし、医学部受験の際に「地域枠」を設けて県出身者を優先的に採用していますが、これでも不十分で勤務医不足は深刻な状況が続いています。

当院は国立病院機構に所属する公的病院ですが、医師以外の職種は九州内の別の病院からの異動により確保できるのに対して、医師の人事はほぼ全面的に熊本大学病院に依存している状況です。

熊本大学医学部生や熊本大学病院研修医・専攻医における熊本県出身者の割合をもっと増やして頂かないと、県

内に従事する医師は増えてこないと思います。加えて、いったん都会に出た中堅医師が地元に戻りやすい環境も構築すべきだと思います。

肥後医育振興会におかれましては、郷土愛あふれる勤務医を増やすために、県出身の医学部生に対する援助や県外在住の医師を県内に受入れるためのアピール等を積極的に行って頂きたいと要望する次第です。

末筆になりましたが、肥後医育振興会の益々のご発展を祈念申し上げます。

